

インターネットトラブル事例集 (平成29年度版)



総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html

はじめに

インターネットやアプリは、安全に正しく使うことができればとても役立つ便利なものです。しかし残念ながら、誹謗中傷やいじめの温床になったり、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったりしていることも事実で、子供たちが被害者だけではなく、加害者になるケースさえ生じています。

これからの時代を生きる子供たちにとって、情報活用能力は不可欠、避けて通ることはできません。ですから、インターネットや、スマートフォンをはじめとするデジタル機器、SNSによるコミュニケーションなどを「賢く安全に使うための知識・知恵」や「ルールを守って使える心」を育むことが大切なのです。本事例集が、教育や子育ての現場で、子供たちの情報活用能力を育てる一助となれば幸いです。

学校の授業などでご活用いただくために

学習、指導、話し合いに活用したいというご要望にお応えして、今年度版は、授業などでもお使いいただける構成になっています。事例ごとにプリントするなど、積極的にご活用ください。

実際に起きたトラブルです。まず初めに、ここをじっくりと読ませてみましょう。

考えてみよう！

この内容を、子供たちに問いかけてみてください。

A～Cの小見出しは、考える上でのヒントです。文章部分は、助言や発表・発言時のコメントとしてお使いください。

ワンポイントアドバイス

各トラブルを予防・回避するための指導のポイントです。

そんなつもりじゃなかったのに……

7 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害

友人の間だけで回した内容だったのに

ネットで知り合った人に待ち伏せされた



タイムライン
名前→
年齢→
学校→
性別→
次の人→

水曜日は、この駅に逢っているはず。

無料通話アプリで、学校の友人からバトンが回ってきました。質問内容を読み、Jさんは、軽い気持ちで名前や年齢、学校名などを答えました。ネットで知り合った男性に待ち伏せされたJさん。以前その人に無料通話アプリのアカウントを教えたために、Jさんの情報が知られていたのです。

考えてみよう！
「仲間のやりとりを、知らない人に見られていた」「プライベートな情報を、自分が知らない“友達の知人”が見ていた」としたら、どんなことが起きるでしょう？

- A. 公開範囲は設定した？
無料通話アプリは仲良ししか読めないから大丈夫かと思いき、細かい設定をせず使っている子がいっぱい。友だち追加はもらい、タイムラインの公開・非公開の設定も必須です。
- B. 信頼のつながる怖さ
SNSに繋がると、知らない人とのつながりによる危険はいろいろあります。知らない人を登録している仲間がいれば、「この子の友だちなら安心」と思われて、危険は広がります。
- C. 読める人を考慮して投稿
ネットに載せたい情報は、誰に読まれるか、プライベート情報はネットに載せたいから公開していいからと、誰でも見られるところへ投稿してしまいがち。ネットでは見えないところで！が鉄則。ネットでの友達が欲しいなら、個人情報は載せないで。

解説 バトンの内容、読めるのは本当に親しい友人だけ？

無料通話アプリのタイムラインなど、日常のつぶやきを投稿できるサービスを利用した「バトン」というものがやっています。バトンは、定型の質問に答えながら次の人へと回していく遊びのようなもの。一般的なチャットツールとは違って、匿名性はないのですが、公開範囲を設定していないければ、友だち登録しているすべての人が読めるため、トラブルに発展することも少なくありません。個人情報は書かない、読まないように心掛けたとしても、ネットで一言二言話して友だち登録した相手は、タイムラインの非公開を設定しましょう。SNSが安全で使える「インターネット利用の現状と課題」を参考にしてください。

ワンポイントアドバイス
コミュニケーション系のアプリの多くは、読むことができる人を設定することができます。まずは、今の設定が安全かどうか確認させましょう。

左側の原因を読み、それによって生じたトラブル(右)を予想するやり方も可能です。

この部分のみを配布し、グループワークの題材とすることもできます。

参照したい事例がある場合、番号を記載してあります。

各トラブルに関する用語の意味や知っておきたいこと、気をつけたいことなどを簡単に解説してあります。

解説

実際のトラブルからは、学べることがいっぱい。学校で、ご家庭で、友人同士や地域で、子供といっしょに考えてみませんか？



写真をアップするかもしれないから、
自宅や学校が分かるものは
写さないように。



目次

乳幼児とデジタル機器について考えてみましょう！	3
データで考える！インターネットトラブルの現状と傾向	5

インターネットトラブル事例内容

① スマホの過度な使用による日常生活への支障	7
② 無料通話アプリなどでの悪口や仲間外れ	8
③ なりすまし投稿による誹謗中傷	9
④ 個人や学校などへの脅迫行為	10
⑤ SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害	11
⑥ コミュニティサイトなどを使った未成年によるアプローチ	12
⑦ 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害	13
⑧ SNSなどへの投稿内容から個人が特定	14
⑨ 旅行中の写真投稿や書き込みによる空き巣被害	15
⑩ 自らIDとパスワードを教えたことによる被害	16
⑪ ゲームに夢中になっている最中に生じた高額課金	17
⑫ オンラインショッピングやフリマアプリでのトラブル	18
⑬ ワンクリック詐欺やウイルスなどによる不当請求	19
⑭ 不正アプリやウイルスによる個人情報漏えい	20
⑮ 悪意あるWi-Fiスポットを利用したことによる情報流出	21
⑯ 動画の違法なアップロードとダウンロード	22
⑰ 自分でプログラミングしたウイルスをアップロード	23
子供にスマートフォンを持たせる前に(チェックシート)	24
フィルタリングの設定方法	25

平成29年度総務省調査研究「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」

- 発行者 総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
- 請負者 株式会社JMC
〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-8-8 目黒F2ビル
- 監修 尾花 紀子 ネット教育アナリスト
安心ネットづくり促進協議会「普及啓発広報委員会」副委員長
内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」委員 ほか
西田 光昭 柏市教育委員会 教育専門アドバイザー